

佐呂間町の子ども読書活動に関するアンケート調査の考察

■調査概要

(1) 調査目的

佐呂間町内の子どもたちの読書についての実態を把握するため

(2) 調査対象

- ①佐呂間保育所・子育て支援センターの児童の保護者 計148人
(佐保97人 若保22人 浜保9人 支援セ20人)
- ②町内の小・中・高等学校の児童の保護者 計475人
(佐小184人 若小47人 浜小20人 佐中126人 佐高98人)
- ③小学校低学年(1～3年生)児童 計129人
(佐小90人 若小27人 浜小12人)
- ④小学校高学年(4～6年生)児童 計122人
(佐小94人 若小20人 浜小8人)
- ⑤佐呂間中学校の生徒 126人
- ⑥佐呂間高等学校の生徒 98人

保護者(①・②)合計 623人

児童(③～⑥)合計 475人

(3) 回答方法

アンケート用紙に記入してもらい、回収する

(4) 集計方法

回収したアンケート用紙を元に、事務局が集計する

(5) 回収数

- ①佐呂間保育所・子育て支援センターの児童の保護者 計84件
- ②町内の小・中・高等学校の児童の保護者 計237件
- ③小学校低学年(1～3年生)児童 計96件
- ④小学校高学年(4～6年生)児童 計69件
- ⑤佐呂間中学校の生徒 102件
- ⑥佐呂間高等学校の生徒 97件

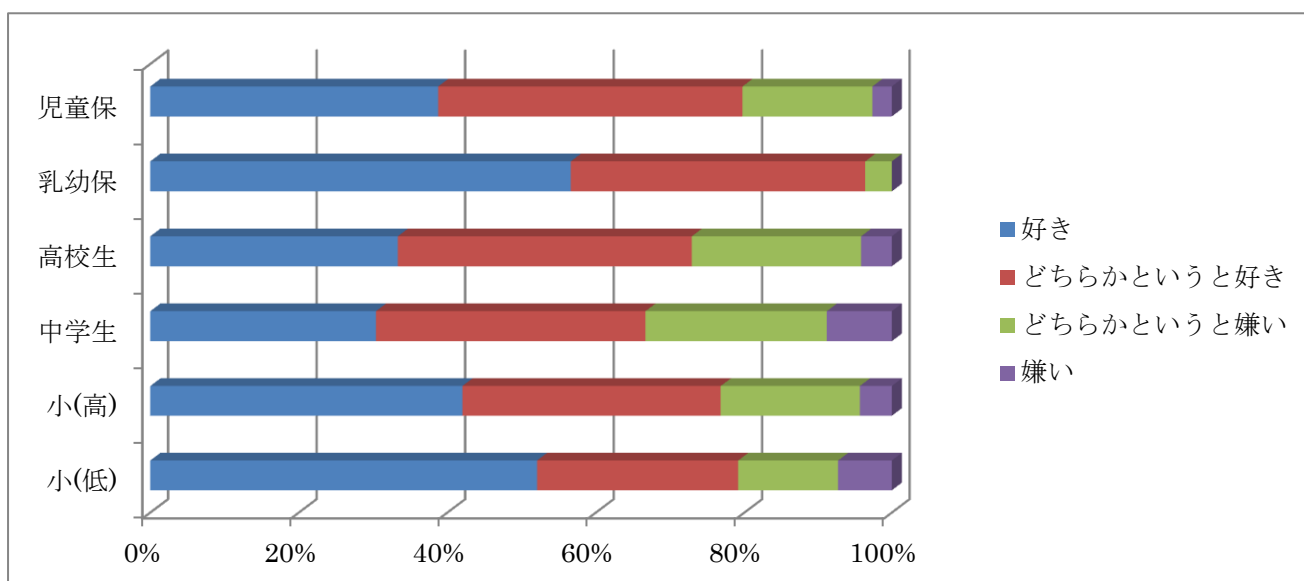
■アンケート結果

1. あなたは、本を読むことは好きですか。(全員)

(※保護者については、子どもの読書習慣への設問)

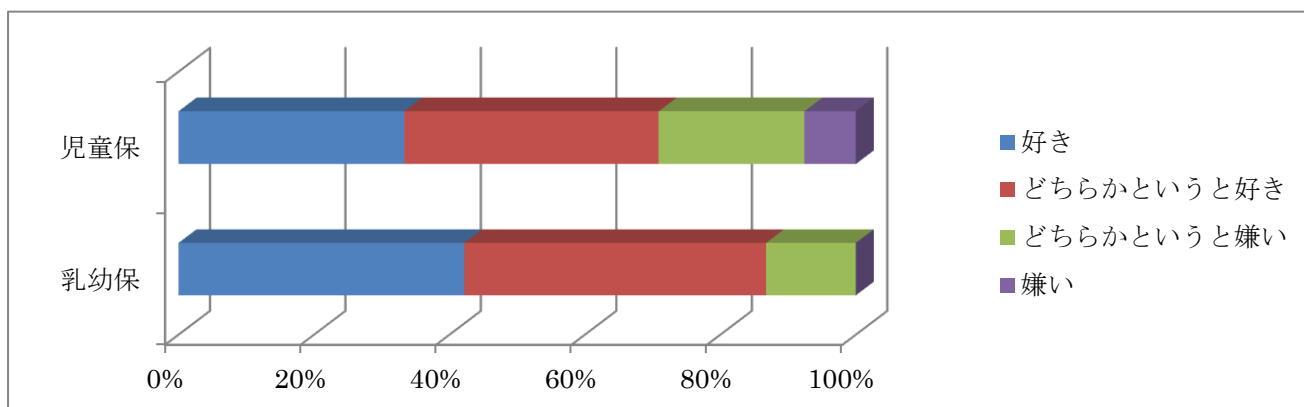
「好き」「どちらかといえば好き」と答えた割合が、小学校低学年で79.2%、小学校高学年で76.9%と高くなっています。乳幼児においても、96.4%を占めており、好ましい傾向にあると見られます。

中高生では「好き」「どちらかといえば好き」の割合がやや低くなり(それぞれ66.7%と72.9%)、年齢が高くなるにつれ、読書への興味が減ることが読み取れます。



2. ご記入者(あなた)は自身は読書は好きですか。(保護者のみ)

「好き」「どちらかといえば好き」と答えた割合が、乳幼児保護者で86.7%、児童保護者で70.9%となっています。読書が好きな親の世代の割合が、子どもの世代よりもやや低くなっています。



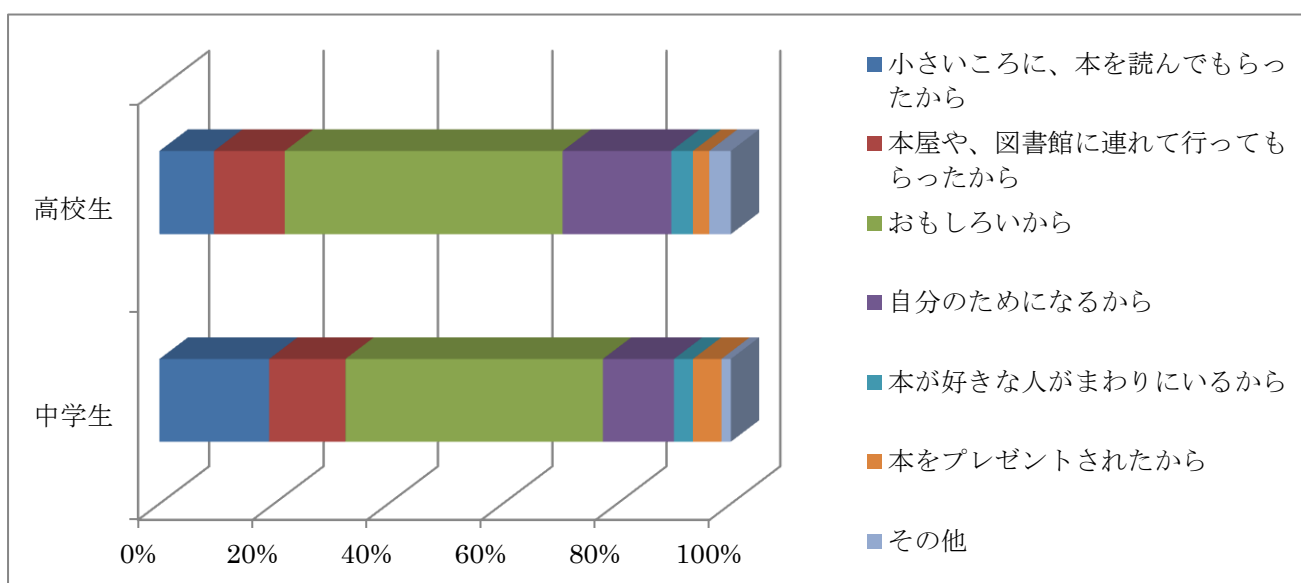
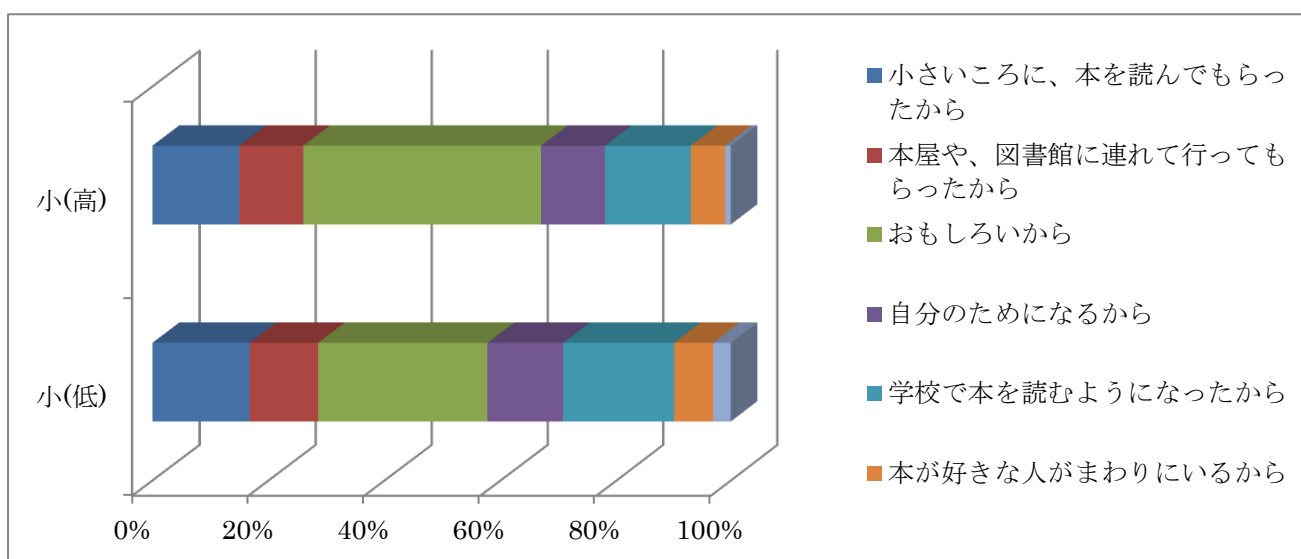
3. 本を読むのが「好き」、「どちらかというとき好き」と答えた人にお聞きします。

本が好きなのは、どうしてですか。(小低・小高・中学・高校)

最も多く選ばれた選択肢は「おもしろいから」であり、本そのものの魅力を理解していることがわかります。

次に選ばれた選択肢は、小学生では「学校で本を読むようになったから」「小さいころに、本を読んでもらったから」が共に高い水準にあり、学校や家庭での読書習慣の重要さが把握できます。

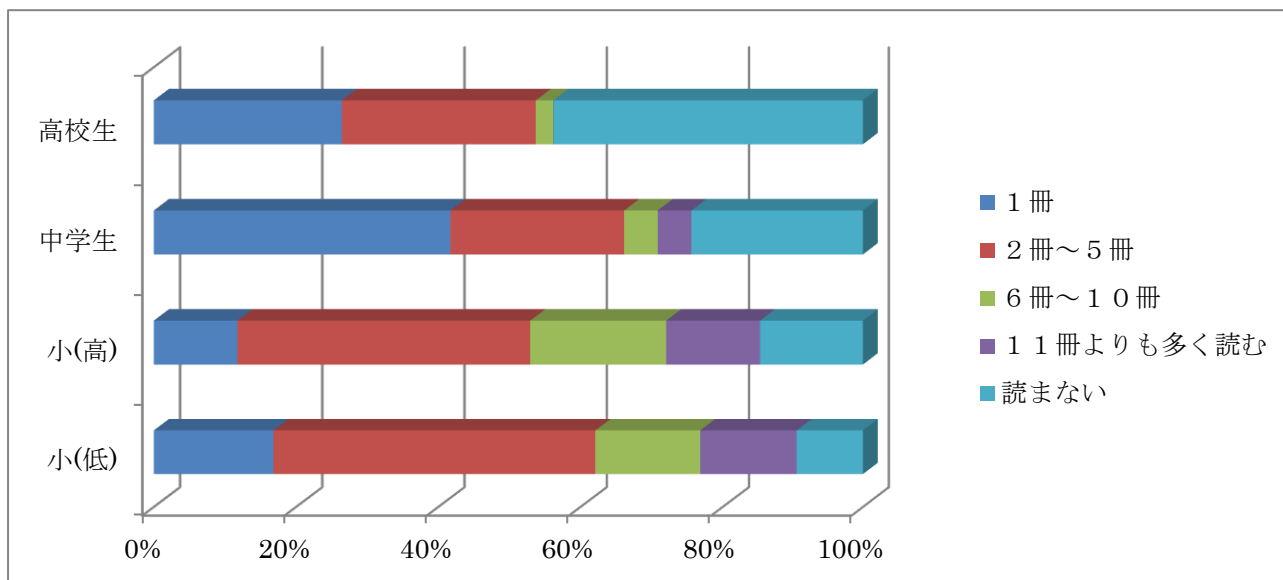
中学・高校では「自分のためになるから」が一定の比率を占めてきており、学年が上がるごとに、必要に応じて自主的に読書を行う姿勢が習慣づいていることがわかります。



※小学生と中学生・高校生で選択肢を一部変えています。

4. あなたは、1ヶ月にどれくらい本をよみますか。(小低・小高・中学・高校)

小学校低学年・高学年においては月に1冊以上読書をする子どもの割合がそれぞれ90.5%と85.3%と高いのに比べ、中学生では75.6%、高校生では56.2%と大きく減少しています。



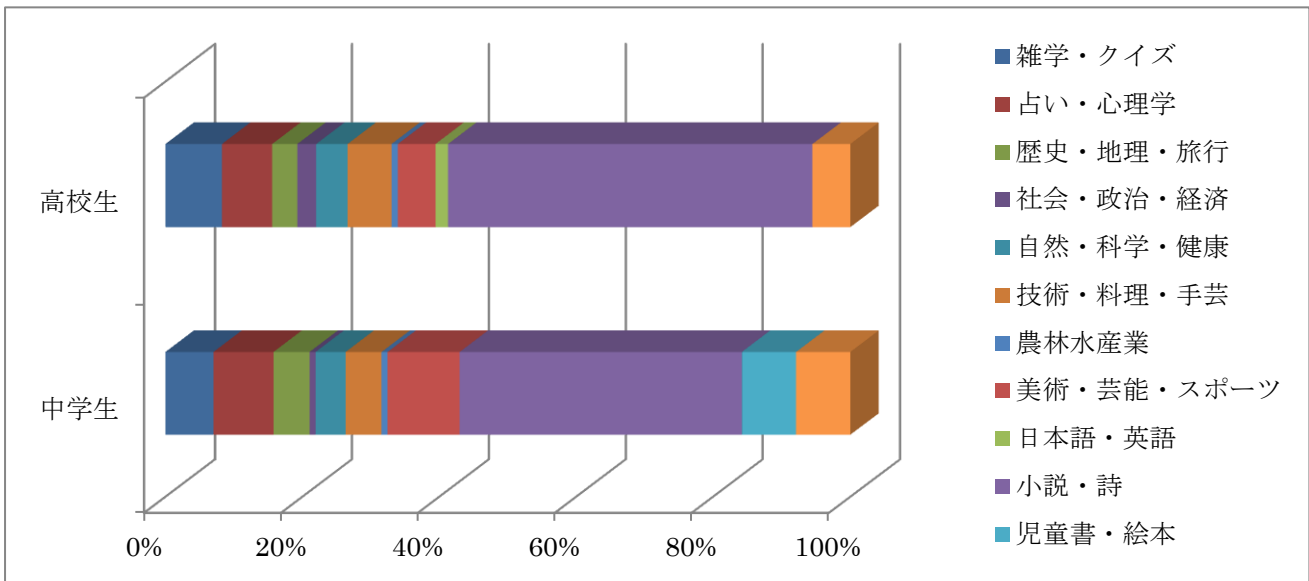
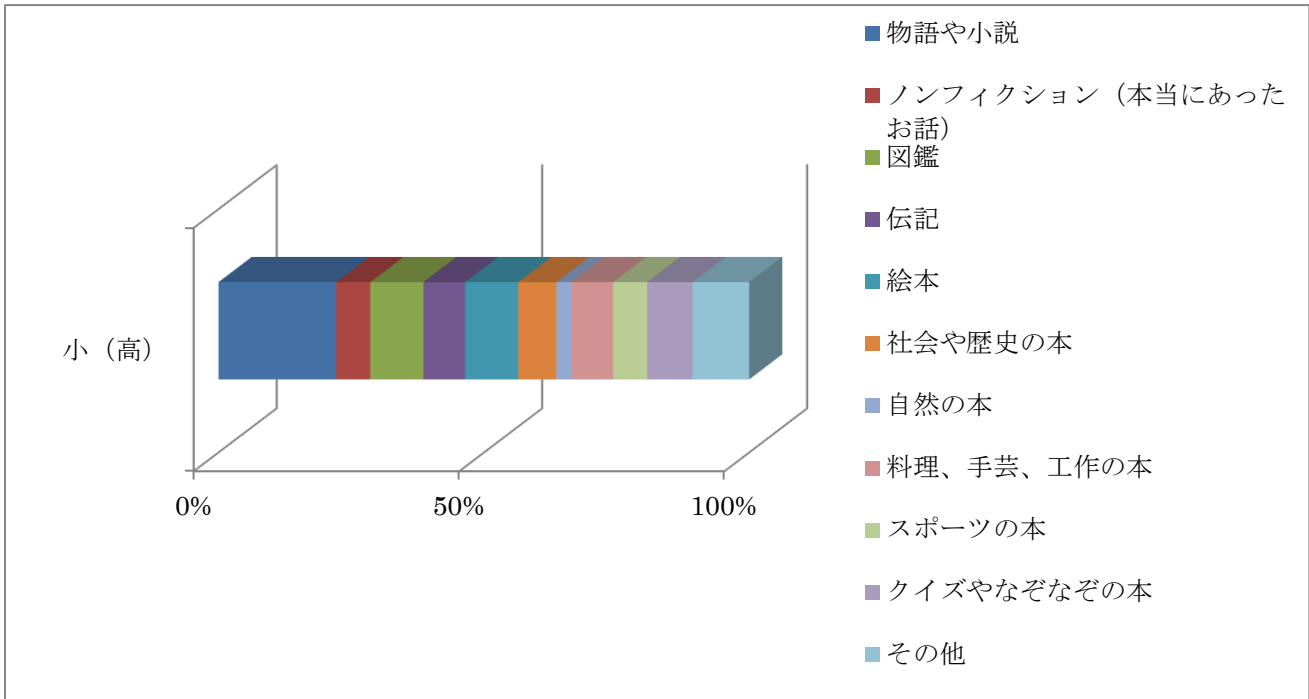
5. 〇冊読むと答えた人にお聞きします。どんな本を読みますか。

また、最近読んでおもしろかった本、楽しかった本があれば、本の題名を教えてください。(小高・中学・高校)

全学年を通して「物語や小説(小説・詩)」が人気で、学年が上がるごとにその比率が高く占められています。「カゲロウデイズ」「ノーゲーム・ノーライフ」などに代表されるライトノベル作品が多く読まれているようです。

小学生では「物語や小説」の比率が低くなり、多様な本を読んでいることがわかります。また、「銀の匙」「進撃の巨人」などの人気漫画が読まれていて、流行に敏感なことが伺えます。

中学生、高校生では、映画やドラマの原作で話題を集めた小説や漫画が読まれていて、これらの作品の映像化が読書のきっかけとなっていることがわかります。



※小学校高学年と中学生・高校生で選択肢を変えています。

<本の題名など>

小学生（高学年）

【読み物】

- ・ラブレター
- ・南極物語
- ・アクセルワールド
- ・とある魔術の禁書目録
- ・ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか
- ・ねずみの騎士デスペローの物語
- ・一期一会
- ・プレインズ
- ・アナと雪の女王
- ・お願い！フェアリー
- ・ちいさいモモちゃん
- ・霧のむこうのふしぎな町
- ・ねこ式
- ・ぼくらの七日間戦争
- ・ファイターズの本
- ・魚ずかん

【マンガ】

- ・銀の匙
- ・となりの関くん
- ・君に届け
- ・進撃の巨人
- ・斉木楠雄のΨ難
- ・ワンピース
- ・しずくちゃん
- ・歴史まんが
- ・ジャンプ（雑誌）
- ・ちゃお（雑誌）
- ・コロコロコミック（雑誌）

中学生

【小説】

- ・陽だまりの彼女
- ・謎解きはディナーのあとで
- ・北の国から
- ・悪夢ちゃん
- ・メニメニハート
- ・モモ
- ・I Q探偵ムー（浦島太郎殺人事件）
- ・一期一会
- ・銀河鉄道の夜
- ・ソードアート・オンライン
- ・デュラララ！！
- ・G J部
- ・カゲロウデイズ
- ・脳漿炸裂ガール
- ・ミカグラ学園組曲
- ・黄昏色の詠使い
- ・終わらない夏を終わらせる五つの方法
- ・レンタルフルムーン
- ・ゼロの使い魔

【その他】

- ・アオハライド
- ・銀魂
- ・今日、恋をはじめます
- ・魔法少女まどか☆マギカ
- ・誰でも上手くなるバスケットボール
- ・異形再生
- ・銀の空想科学読本
- ・ホラー系
- ・都道府県クイズ
- ・釣りの本
- ・ガンダムの本

高校生

【小説】

- ・絶対零度
- ・いちご水
- ・こんぺいとう
- ・もう二度と流れない雲
- ・あそこの席
- ・八日目の蝉
- ・×ゲーム
- ・心
- ・1分間だけ
- ・手紙屋
- ・神去なあなあ日常
- ・プラチナデータ
- ・シャーロック・ホームズ
- ・永遠の0
- ・ライ麦畑でつかまえて
- ・宇宙で一番明るい屋根
- ・水銀奇譚
- ・獣の奏者
- ・カゲロウデイズ
- ・ノーゲーム・ノーライフ
- ・デート・ア・ライブ
- ・アクセルワールド
- ・ソードアート・オンライン

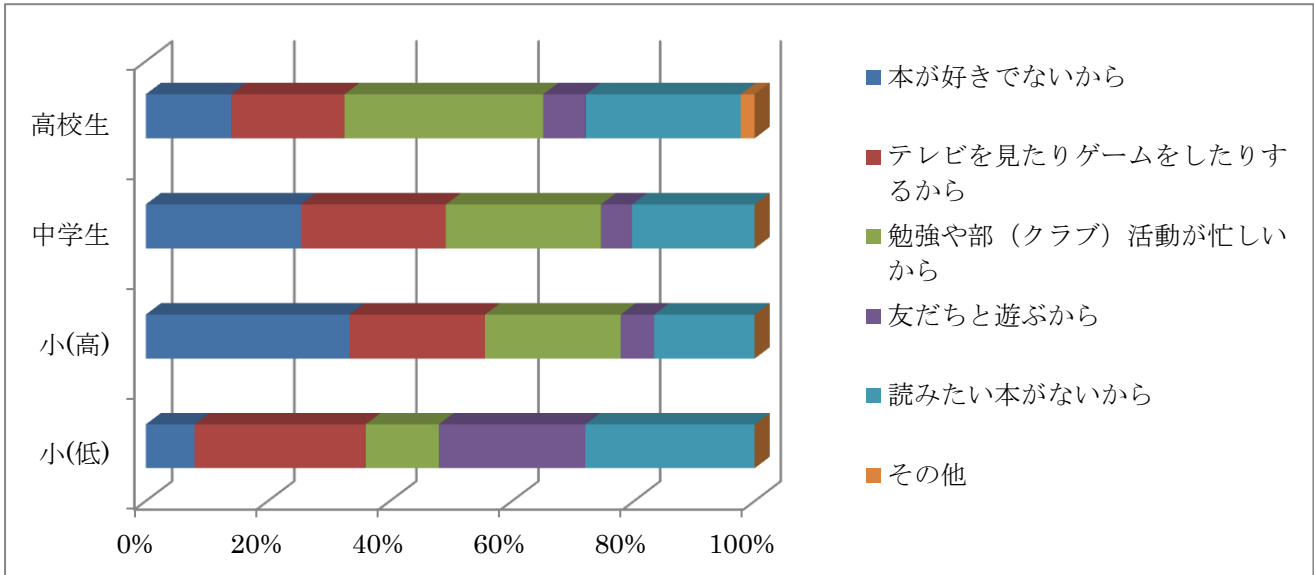
【その他】

- ・だからあなたも生き抜いて
- ・明日もまた生きていこう
- ・あなたの経験には意味がある
- ・10代にしておきたい17のこと

6. 読まないと答えた人にお聞きします。本を読まなかったのは、どうしてですか。

(小低・小高・中学・高校)

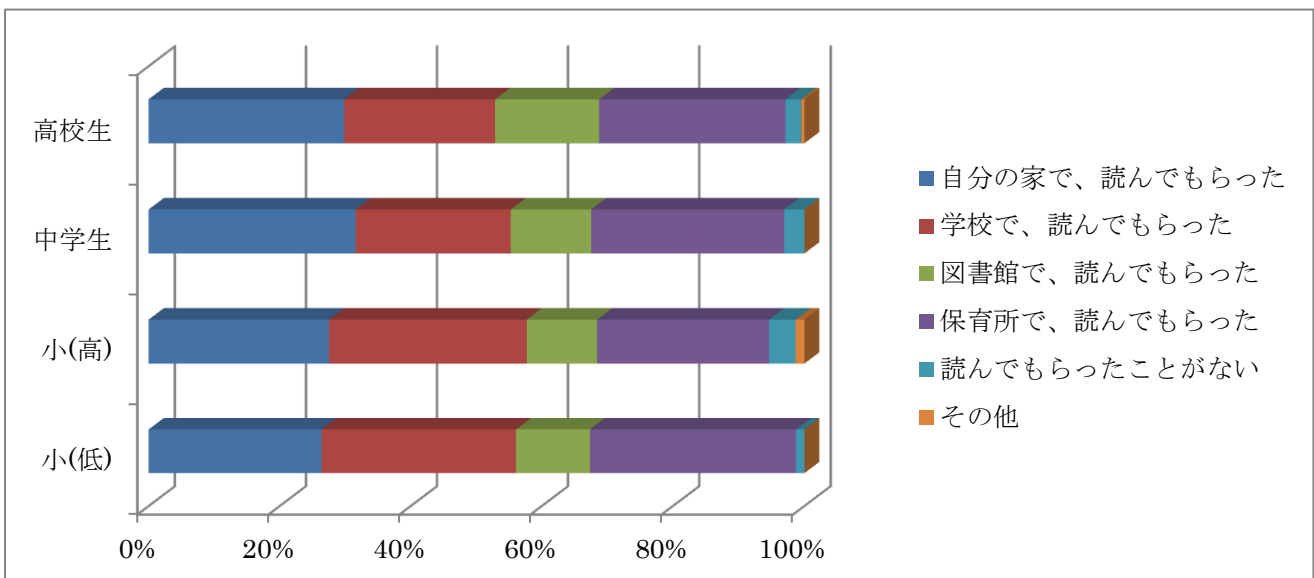
学年があがるにつれ「勉強や部活動」の機会が増え（高校生 32.5%）、本を読む機会が減っていることがわかります。また、小学校高学年と中学生で「本が好きでない」の比率が高くなり（小学校高学年 33.3%、中学生 25.4%）、興味を持てる本との出会いがより必要なことがわかります。



7. あなたは、誰かに本を読んでもらったことがありますか。

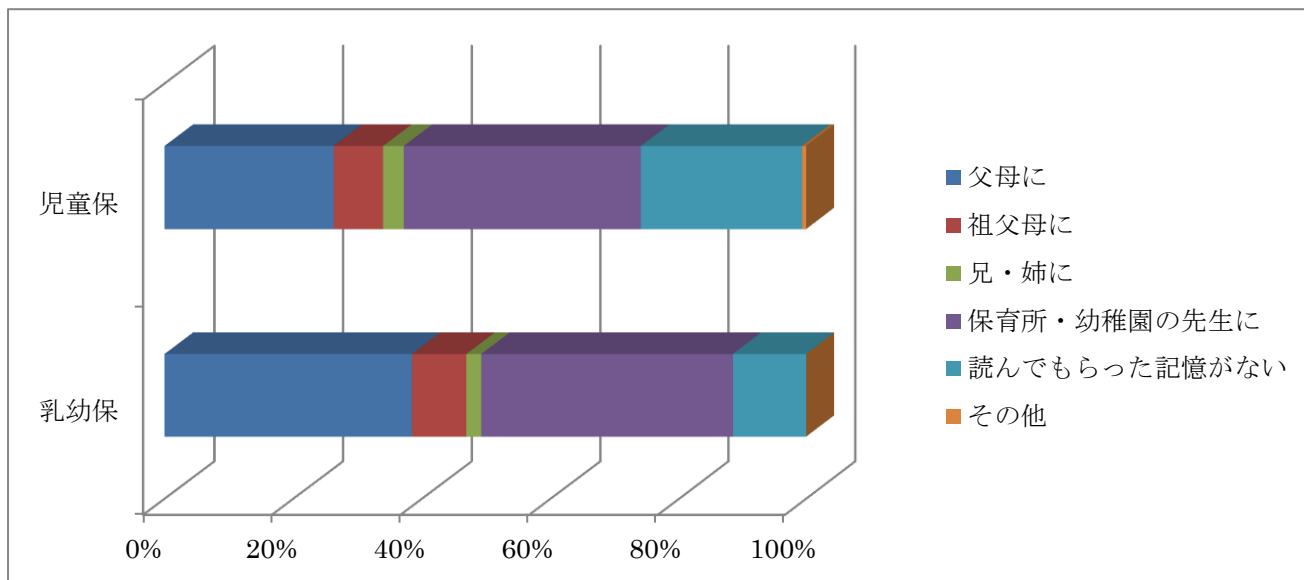
(小低・小高・中学・高校)

ほぼ全員が本を読んでもらった経験があるようです。小学校低学年では保育所と学校での読み聞かせが印象に残っているためか、これらの回答比率が大きく占めていて、家庭以外での読み聞かせも重要な役割を占めていると言えます。



8. ご記入者（あなた）は幼児期に本を読んでもらったことはありますか。（保護者のみ）

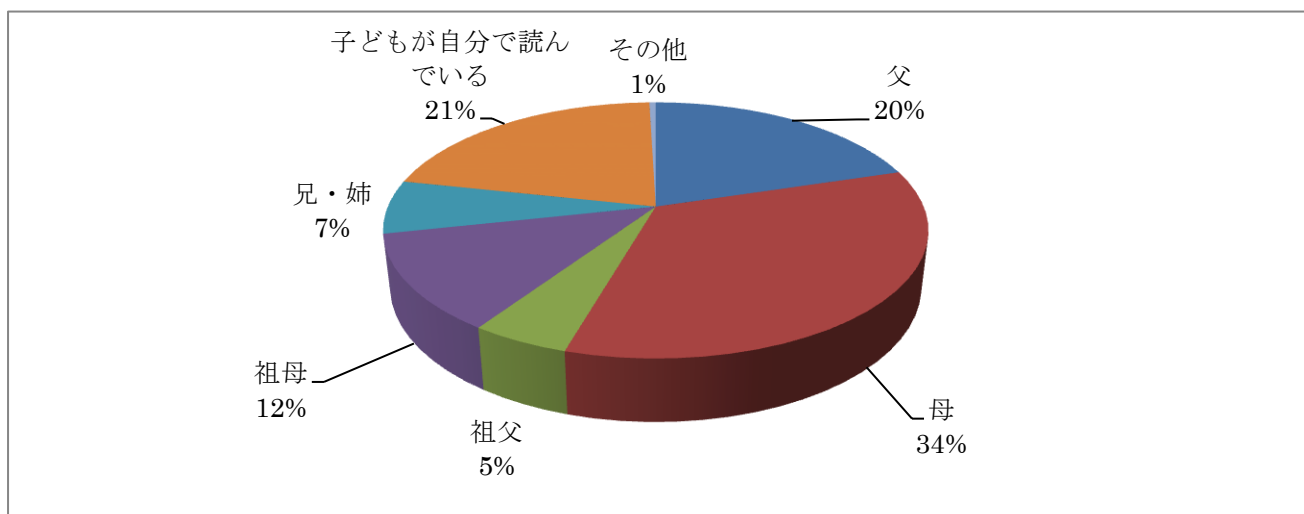
「保育所・幼稚園の先生」と次いで「父母」に読んでもらったとの回答が多いですが、保護者の世代は子どもたちの世代よりも読んでもらった印象が薄れるのか、「読んでもらった記憶がない」と答えた人の割合が乳幼児保護者 11.5%、児童保護者 25.3%と、子どもたちの世代よりも割合が大きくなっています。



9. ご家庭で、どなたがお子様の本を読んであげていますか。（乳幼児保護者のみ）

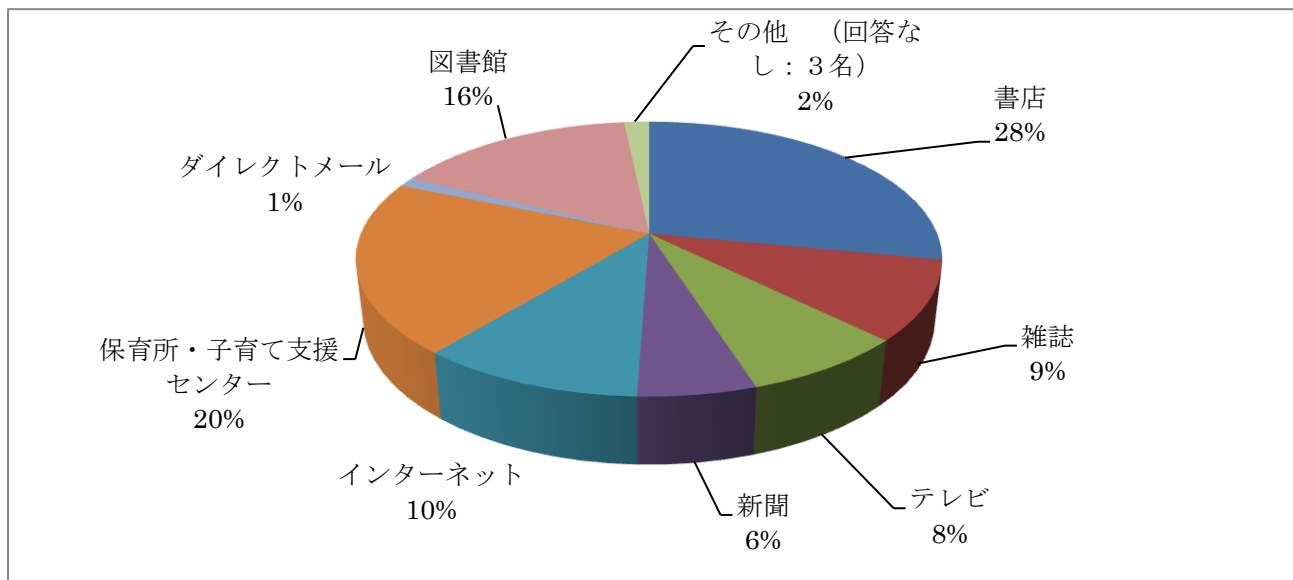
最も多い回答は「母」、次いで「父」であり、双方あわせて 54.4%と半数を占めています。

ご両親が読み聞かせをすることが、親子の重要なコミュニケーションのひとつとなっていることがわかります。



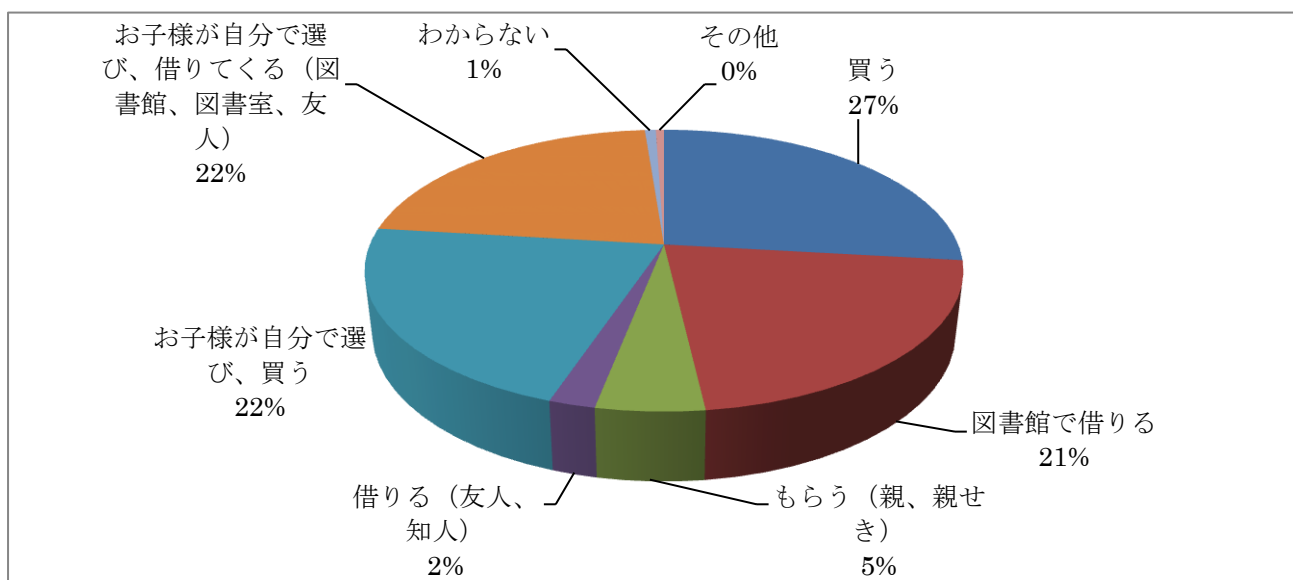
10. 子ども向けの本についての情報は、どこで得ていますか。(乳幼児保護者のみ)

「書店」(28.1%)、「保育所・子育て支援センター」(20.4%)、「図書館」(15.9%)の順で本についての情報を得ていることがわかります。保護者が情報を得ようとした場合に、多くの本の中から子ども向けの本の情報を提供できるような、本を取り扱う人の専門知識が重要視されているためではないかと思われます。



11. お子様がお読みにする本はどのように入手されていますか。(児童保護者のみ)

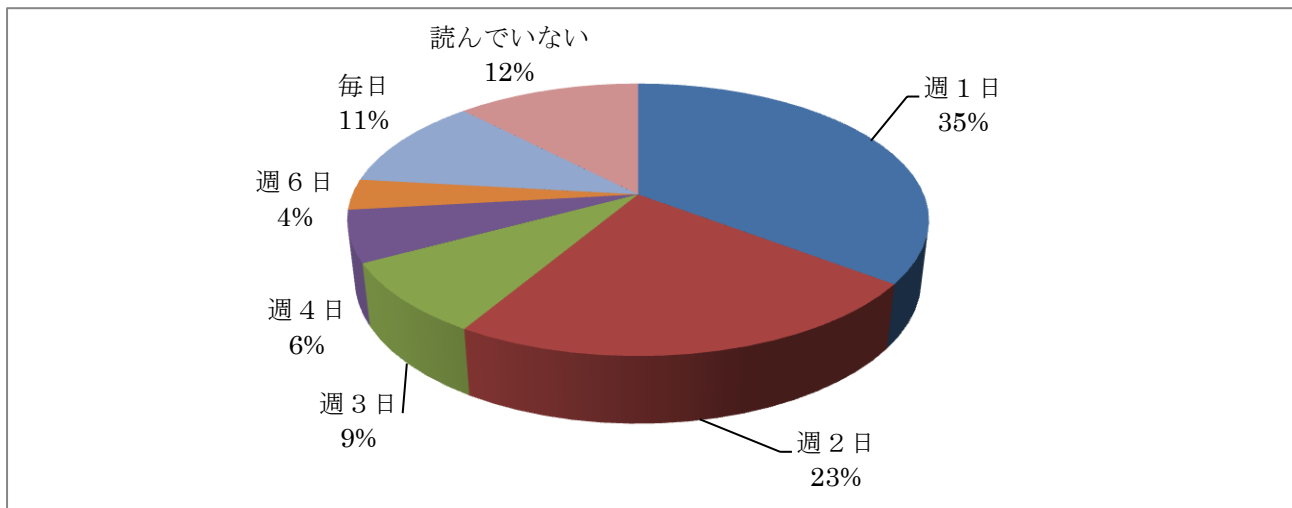
「買う」(26.9%)、「お子様が自分で借りる」(21.9%)、「お子様が自分で買う」(21.7%)、「図書館で借りる」(21.3%)がそれぞれ高い比率を占めています。保護者と子どもたちが、同程度買う場合も借りる場合もあることから、書店と図書館(図書室)のどちらも、本との重要な出会いの場所であると言えます。



1.2. 一週間に何日くらい、お子様に本を読んであげていますか。(乳幼児保護者のみ)

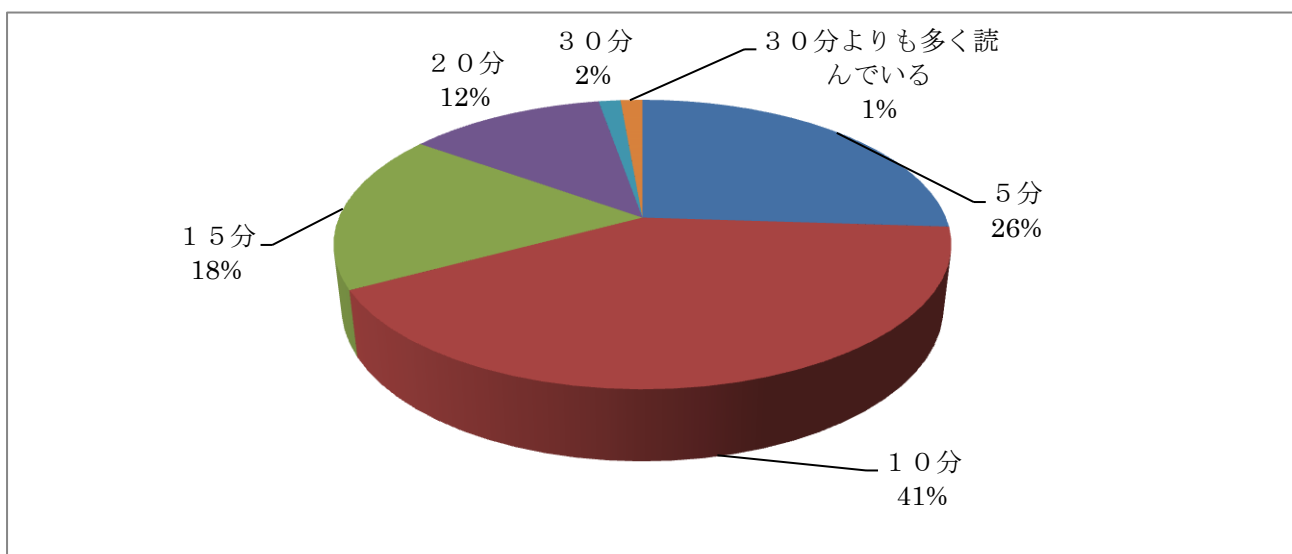
最も多かった答えは「週1日」(35.3%)、次いで「週2日」23.2%となっています。「毎日」と答えた人も11.0%いて、頻度はまちまちですが、各家庭で読み聞かせを習慣としていることがわかります。

一方、「読んでいない」と答えた乳幼児保護者も12.2%います(詳細は1.4にて記載)。



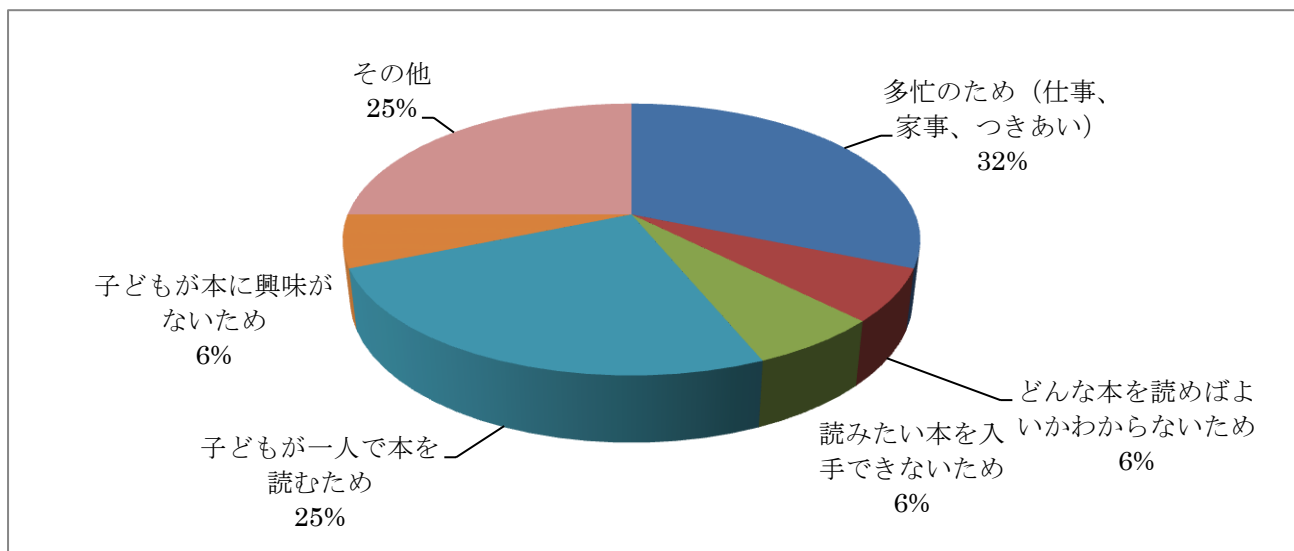
1.3. 週〇日と答えた方へお尋ねします。一日につき何分くらい、お子様に本を読んであげていますか。(乳幼児保護者のみ)

「10分」と答えた人が41.1%と最も多く、以下「5分」(26.0%)、「15分」(17.8%)と続きます。乳幼児期の子どもたちの集中力を踏まえて、読書時間を10分程度に設定しているためと思われます。



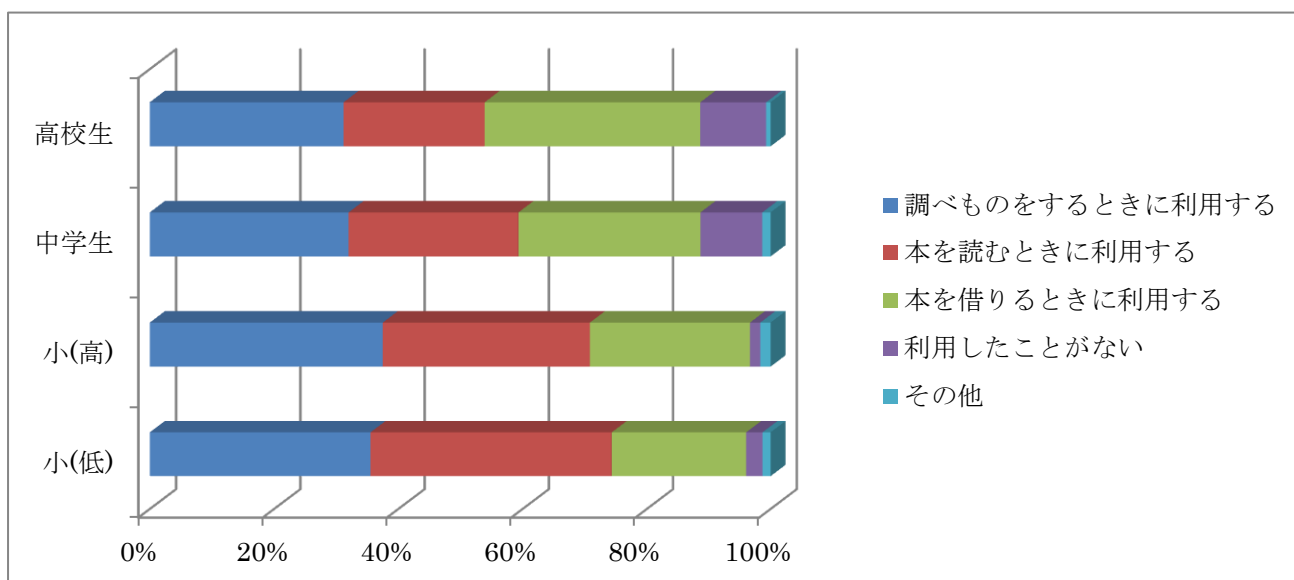
14. 読んでいないと答えた方へお尋ねします。本を読んでいない理由または出来ない理由があれば教えてください。(乳幼児保護者のみ)

理由として「多忙」を挙げた人が最も多く、31.3%となっています。また、その他の意見としては、「兄弟が読む」「子どもの寝る時間が遅くて布団に入るとすぐ寝る」などが挙げられています。



15. あなたは、学校の「図書室」や「本のコーナー」を、どんなときに利用しますか。(小低・小高・中学・高校)

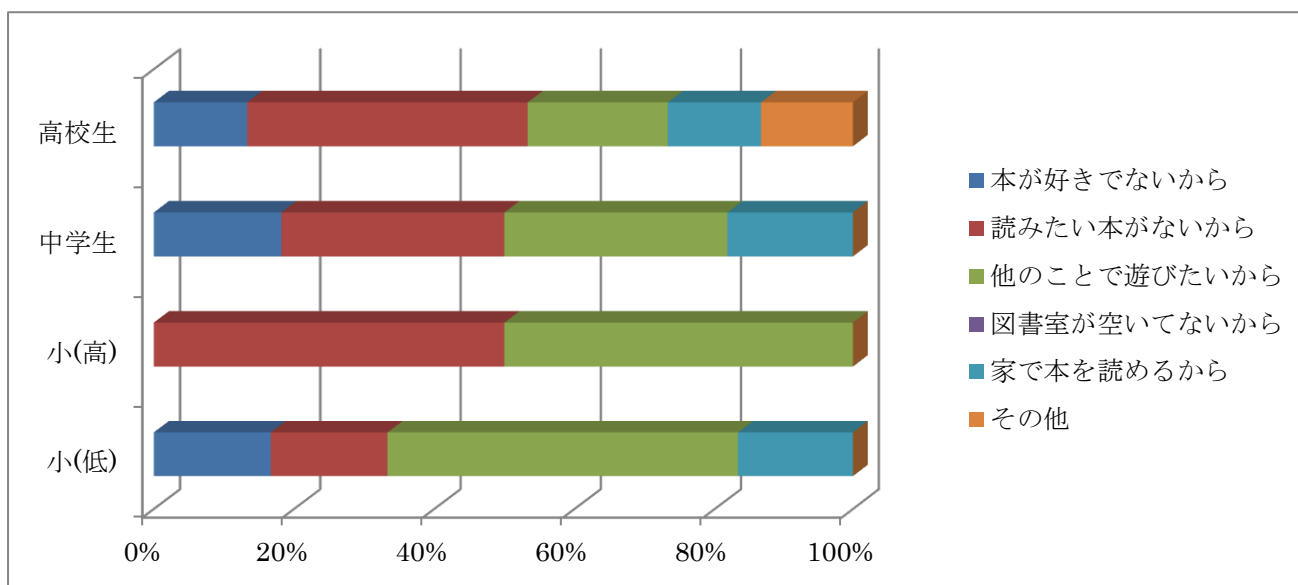
学年が上がるごとに図書室利用の目的が、「本を読むため」から「本を借りるため」に変化しています。興味の対象が、その場で読み終える本から、家へ持ち帰りじっくり読むための本へと変わっているためと思われます。一方、「利用したことがない」と答えた人の割合も、中学生 10.0%、高校生 10.6%と少なからずいます。



16. 使ったことがないと答えた人にお聞きします。

図書室を使っただけではないのは、どうしてですか。(小低・小高・中学・高校)

最も多かった回答は、中学生では「読みたい本がない」と「他のことで遊びたい」がそれぞれ31.8%で、高校生でも「読みたい本がない」が40.1%、「他のことで遊びたい」が20.0%と高い比率を占めています。図書室の利用を促すためには、若年層が興味をもって読みたくなるような本の整備が必要であると思われます。



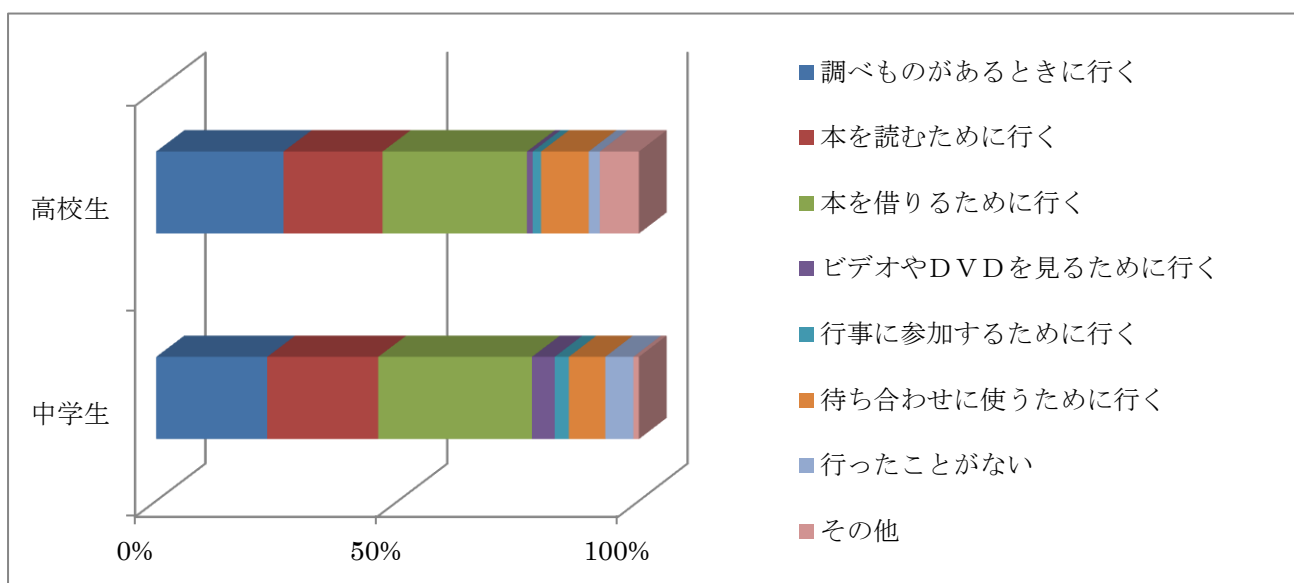
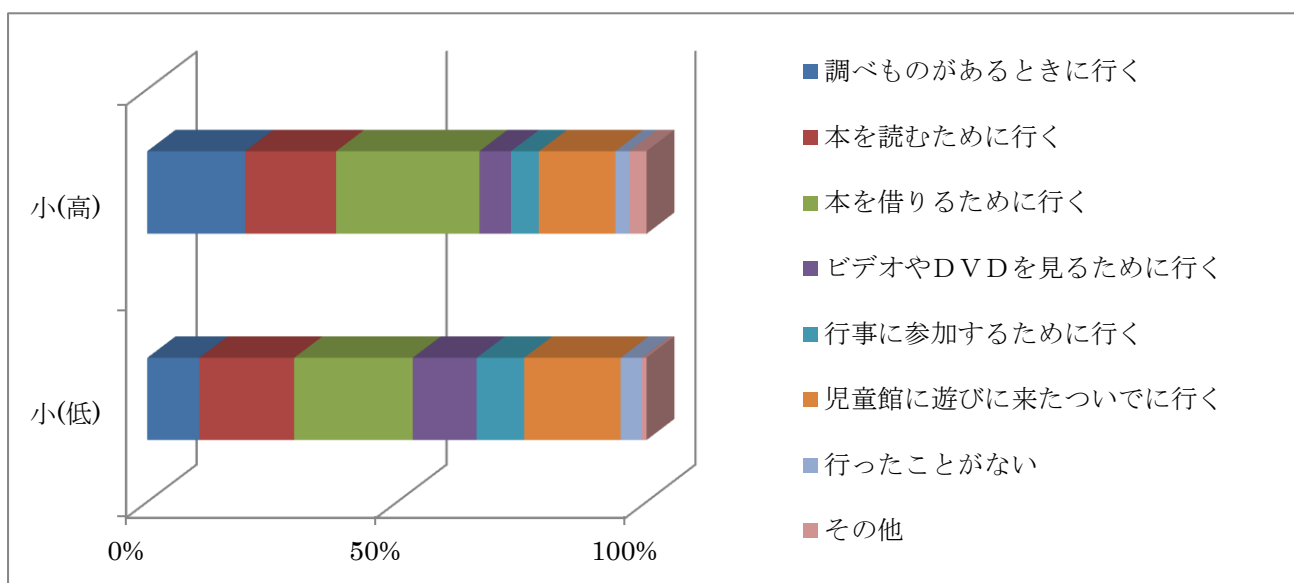
1.7. あなたは、町の「図書館」にどんな時に行きますか。(小低・小高・中学・高校)

すべての年代で「本を借りるために行く」が高い比率を占めています。(小学校低学年 23.7%、小学校高学年 28.6%、中学生 31.9%、高校生 29.8%)

図書館に児童館が併設されていることから、「児童館に遊びに来たついでに行く」が小学校低学年で 19.4%、小学校高学年で 15.4%と、多くなっていることがわかります。来館をきっかけとして、読書につなげていくための一層の工夫が求められます。

また、学年が上がるごとに「調べものがあるときに行く」の比率が増え、中学生で 22.9%、高校生で 26.3%となっており、図書館を地域の情報ツールとして活用していることが見て取れます。

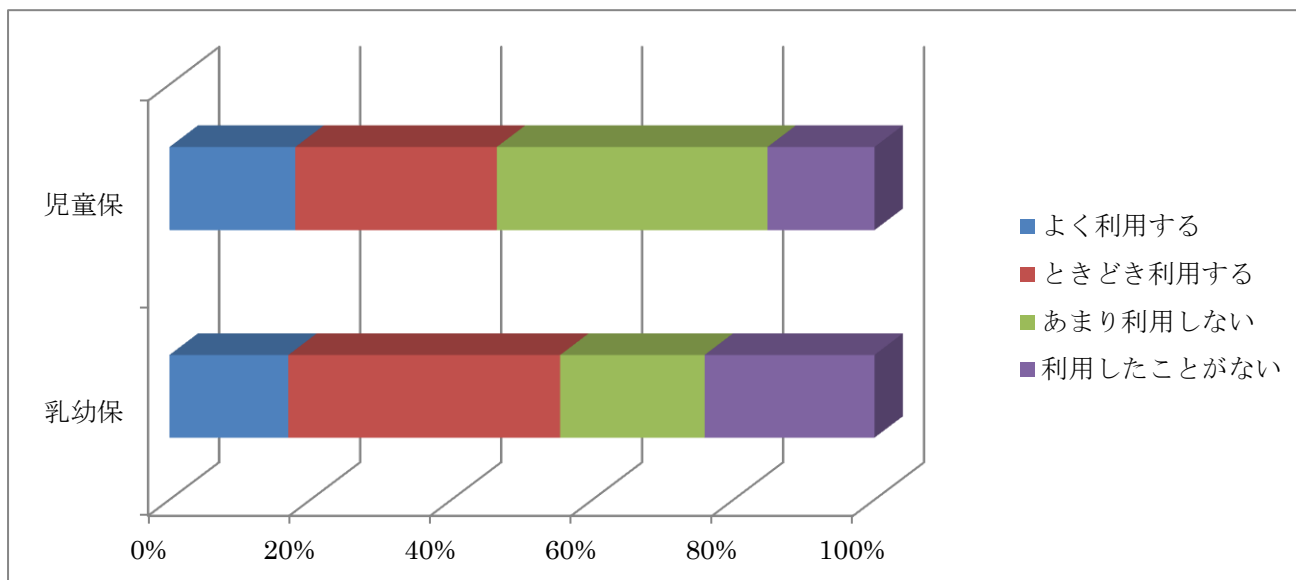
一方、図書館へ「行ったことがない」の回答は、小学校低学年で 4.3%、小学校高学年で 2.8%、中学生で 5.9%、高校生で 2.3%となっております。



※小学生と中学生・高校生で選択肢を一部変えています。

18. ご記入者（あなた）は図書館を利用していますか。（保護者のみ）

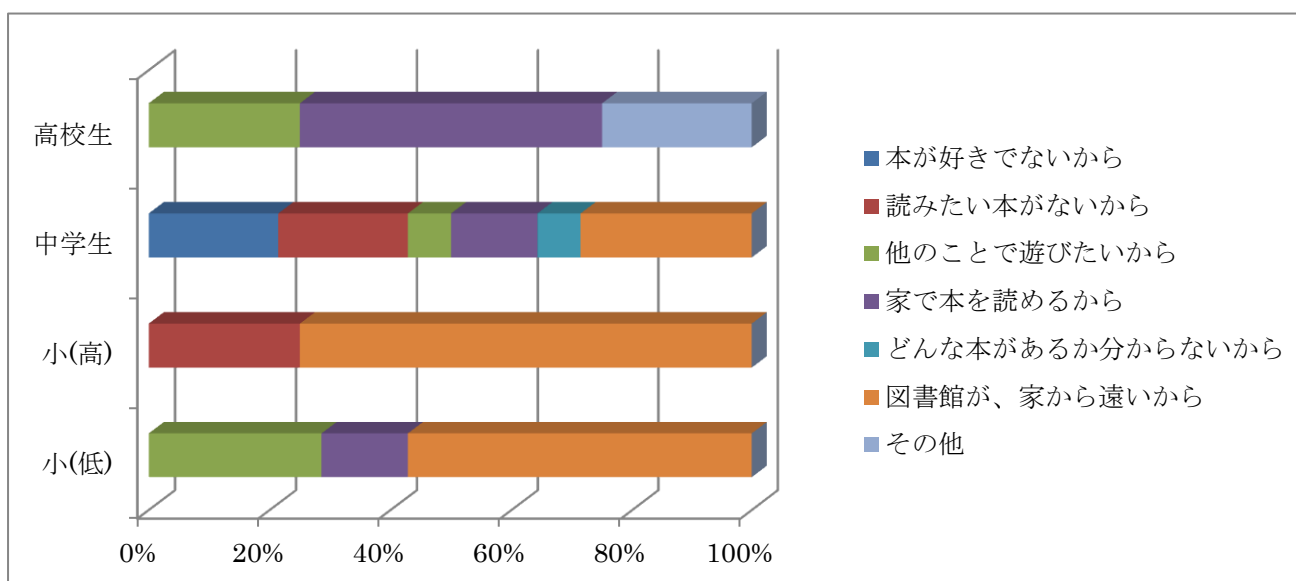
保護者の世代で最も多かった回答は、乳幼児保護者が「ときどき利用する」（38.5%）と答えたのに対し、児童保護者は「あまり利用しない」（38.3%）が最多の回答でした。また、「利用したことがない」の回答も、乳幼児保護者 24.1%、児童保護者 15.2%となっており、図書館を利用してもらうよう、宣伝等による来館のきっかけ作りが求められます。



19. 行ったことがないと答えた人にお聞きします。

町の「図書館」に、行ったことがないのは、どうしてですか。（小低・小高・中学・高校）

図書館に行ったことがない理由で最も多かったのは「家から遠い」（小学校低学年 57.1%、小学校高学年 75.0%、中学生 28.7%）でした。あおぞら号による巡回業務や、学校巡回文庫の入替を充実させるなど、遠隔地の子どもたちへのサービスを考えていく必要があります。



※小学校低学年・高学年と中学生・高校生で選択肢を変えています。

20. 読書を楽しむために、必要だと思うことはなんですか。(中学・高校)

共通して寄せられた意見としては、本を読みやすい「環境」が最も多い回答でした。また、本とのきっかけ・出会いといった回答も見られました。よりよい読書環境と、その人にとって素晴らしい本を見つけやすい場所を提供できるよう、環境の整備が求められています。

中学生

(意見の一部)

- ・環境
- ・いつでも読書ができる環境をつくること
- ・文章を理解することが重要
- ・想像しながら読む
- ・本の面白さを伝える
- ・いろいろな本に出会うことが、好きになるきっかけ。
- ・面白い本を見つけたら読書が楽しくなると思う
- ・毎日、10分でもいいから読むこと
- ・進んで読書をする姿勢

高校生

(意見の一部)

- ・周りの環境を整える
- ・本を読むのに集中できる静かな環境
- ・本を読んで色々なことを知ったり調べてみたいという好奇心が必要
- ・読書をする時間を見つけること
- ・本の世界観を想像する
- ・本をすすめられ試しに読んで以来、小説を読むようになった
- ・きっかけが大切
- ・自分が何に興味を持っていて、何が好きなのか知ることが大切

21. お子様が本を好きになるように、意識して取り組んでいる工夫はありますか。

(乳幼児保護者のみ)

子どもたちが本を好きになるきっかけの一つとして「読み聞かせ」を選び、その読み方に工夫をこらし、コミュニケーションをとっているという回答が多く寄せられました。また、「子どもが見えるところに本を置く」、「興味がある本を選んで読む」など、身の回りの環境や本の選び方にも触れた意見がありました。

乳幼児保護者

(意見の一部)

- ・本の中のキャラクターが掛け声を出す場面で、子どもと一緒に言ってみる
- ・読んでいる途中で「どう思う？」など話しかけながら読んでいる
- ・子どもが見えるところに本を置く
- ・子ども用の本棚を居間において、いつでも好きな時に取り出せるようにしている
- ・TV番組のキャラクターの本を買って読んであげる
- ・興味がある内容の本や、食べ物が主役の本を選び、身近に感じられるようにしている

2 2. お子様が読書を楽しむために、どのような環境が必要だと思いますか。

(児童保護者のみ)

多くの児童保護者から寄せられた意見として、家庭や学校で「読書の時間を取り入れる」などの読書を習慣づける取り組みの提案がありました。他にも、子どもたちの身近に本に触れやすい環境を作ってあげるなど、場所を重視する意見も多く見られました。

(意見の一部)

- ・授業以外の時間に「読書」を取り入れ、好き嫌いはともかく、読んでみるというきっかけづくりが必要。読んだ感想を報告しあったりしたら、感想文を書く力になるのでは。
- ・子どもと一緒に親も読書タイムを実行
- ・字が読めるようになったら、読み聞かせだけでなく、感想を話し合ったらいいと思う。
- ・絵本に興味を持つようになったが、どんな絵本がいいか迷う。年齢に合ったものが分かりやすいといいと思う。
- ・乳幼児期からの読み聞かせで、小さいころから本と触れ合う機会があるとよい

2 3. 学校の図書室や、町の図書館にしてほしいことはありますか。

(小低・小高・中学・高校)

学年問わず多かった意見は、「新しい本（新しい漫画）を置いてほしい」というもので、流行の作品やその題材となった漫画・小説が多く挙げられていました。

図書館に対してだけの意見ではなく、学校図書室への要望とも受け取れる意見であるので、今後も図書館職員と図書担当教諭との連携を図りながら、読書環境づくりのための情報交換を進めていく必要があると考えられます。

また、図書館に対しての意見では、「おすすめ本の紹介」や「検索機を使いやすく」など具体的な意見が多く寄せられましたので、担当者間で早急な対応を考えていく必要があります。

小学生（低学年）

(要望の一部)

- ・新しい本、面白い本を置いてほしい
(妖怪ウォッチ、アナと雪の女王、ポケモン、名探偵コナン、なめこ 他)
- ・佐呂間のことを知ることができる本を置いてほしい
- ・二階の図書コーナーに少し新しい本を入れてほしい
- ・題名の順「あ・い・う・え・・・」の文字を分かりやすいようにしてほしい
- ・絵本を描いている人を読んでほしい（講演会）
- ・行事があるときは教えてほしい
- ・図書館（※図書室？）が広がってほしい
- ・検索するパソコンを増やしてほしい
- ・ビデオを見る場所を増やしてほしい
- ・ほしい本があったら買いたい

小学生（高学年）

（要望の一部）

- ・新しい本を置いてほしい
- ・もう少しマンガを増やしてほしい
（ハンターハンター、メジャー、アナと雪の女王、動物の本、野球の本 他）
- ・おもしろい本を紹介してほしい
- ・シリーズを入れてくれるのなら、全巻入れて
- ・学校の図書コーナーはずっと同じな気がするので、新しい本を置いてくれるなら読みたい
- ・あおぞら号がもっとたくさん来てほしい（家の近くに来てほしい）

中学生

（要望の一部）

- ・新しい本やお勧めの本を、学校や図書館で紹介してほしい
- ・小説（電撃文庫・光文社など）を増やしてほしい
- ・新しい本は1巻からおいてほしい
- ・アニメの小説を増やしてほしい
- ・みんなが読みそうな新しい本を買って、宣伝したらよいと思います
- ・本のどういうところがいいのか、面白いのかおしえてほしい
- ・本を探すパソコンをもう少し分かりやすい表示にほしい
- ・本の場所をわかりやすくしてほしい
- ・いつでも図書館で調べ物をしたい

高校生

（要望の一部）

- ・今はやっているお勧めの本を紹介して
- ・もっとおすすめの本を知りたい
- ・「ワンピース」や「進撃の巨人」など有名なマンガを置いて
- ・有名な人が書いた本を読みたい
- ・新しい本を知りたい
- ・もっと「こんな本がある」とかアピールするべきだと思う
- ・読みたい本を見つけづらいので工夫してほしい
- ・図書館の検索機で、地図に本の場所の★が複数出てきて、どこにあるのかわからない

24. 本に関することで、保育所や図書館への要望がありましたら自由にご記入ください。

(保護者のみ)

保護者からは、本を見つけやすくするための「年齢ごとの本の表示」や、「おすすめ本の案内」などの要望がありました。利便性向上のための継続的な対応が求められていると考えます。

また、一部のサービスや行事などが十分に周知されていないことに対する不満の声がありましたので、広報誌やインターネットなどの様々な方法で、イメージアップとともに積極的な宣伝活動が必要と思われれます。

乳幼児保護者

(要望の一部)

- ・読み聞かせをもっと多く取り入れて
- ・絵本作家をたくさん呼んで（年2回くらい）
- ・支所の本の入れ替えをしてほしい
- ・利用したいけど入りづらい
- ・5・6歳向けの本をわかりやすく表示してほしい
- ・図書館の本は量が多いので、古い本も含めておすすめがあれば教えてほしい

児童保護者

(要望の一部)

- ・図書館の貸出日と返却日の曜日を揃えてほしい
- ・図書館が遠いので、インターネットで予約して近くの支所で借りられるといいです。
- ・本がありすぎて、棚に乱雑に置かれているので、棚を増やすなどしてきれいにしてほしい。
- ・アニメではなく、ためになるDVDを置いてほしい
- ・図書館は静かにする場所だが、子どもたちには入りづらいイメージがある
友人と話しながら読める空間があるとさらに良いと思う
- ・図書館では個別に読める場所、テーブルに仕切りなどあればいい
- ・特集コーナーは図書館を利用しないとわからないので、学校を通してのアピールが必要